

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372201778
法人名	社会福祉法人愛知慈恵会
事業所名	グループホーム田苑そよ風
訪問調査日	平成 20 年 5 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2372201778		
法人名	社会福祉法人愛知慈恵会		
事業所名	グループホーム田苑そよ風		
所在地	一宮市萩原町東宮重字蓮原24-1 (電話) 0586-67-2611		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年5月9日	評価確定日	平成20年8月12日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	84歳	最低 69歳	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋本内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りが田園であり、四季の移り変わりが体感できる環境の中で、やさしい色彩の落ち着いたグループホームである。入居者、家族の意見や思いを受け止め、車椅子の対応、言語障害の人への対応など個別性を大切にされたケアが充実している。また、入居者の生きがい、役割、楽しく感じる事など毎日の生活に変化をもたらす工夫の取り組みや、地域、家族の信頼関係をより深め、質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 時の見当識については誰もが見やすい場所にわかりやすく提示してある。研修に対して積極的に取り組み、質を高める努力をされており、また、職員のストレスの解消方法としてカウンセリングを導入し、改善の方向に努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的を理解し、実践している。入居者が楽しく感じる事や外出の機会を多くするなど職員自ら具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部:4, 5, 6) 地域住民代表、入居者、家族全員参加により評価、活動状況などを報告している。市との連携を綿密にしており、そこで出た意見や要望をサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内に意見箱や苦情窓口を掲示したり、運営推進会議で意見を出してもらっている。訪問時には何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望は、会議で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事(チンドンまつり、れんげまつり)などに入居者と共に参加している。法人全体の夏まつりには地域の人達が多数参加されたり、見学者、ボランティアの訪問は積極的に受け入れて地域との交流を大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者との心の触れ合いを大切に「その人らしく生活して頂く」を念頭におきながら日々のサービスに努めているが、理念が明確でない。	○	法人の理念と共にグループホームとして、独自の理念を作り上げることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や打ち合わせで必ず理念に触れ、話し合い意思の統一を図り、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（チンドン祭り、れんげ祭り）など入居者と共に参加している。また、法人全体の夏祭りには地域の人達が多数参加されたり、見学者、ボランティアの訪問も積極的に受け入れており、地域との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解し、実践している。入居者が楽しく感じる事や、外出の機会を多くするなど職員自ら具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域住民代表、入居者、家族、行政職員が参加し、2ヶ月に1回行っている。事業所の運営、活動状況の報告をしている。そこで出された意見や質問について話し合い、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは連絡を綿密にしている。地域のニーズに積極的に応えるようサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事の時など訪問時に生活の様子を報告している。心身の状況に変化や問題が起きた時は、電話で対応している。全体的には運営推進会議で報告している。	○	「ホーム便り」や手紙などを作成し、定期的に個々に合わせた報告をされる事が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満を伝えやすいようにおもてなしの心で接し、雰囲気づくりを大切にしている。ホーム内に意見箱の設置や苦情窓口を掲示して、運営の反映に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今のところないが、長期休日などは事前説明を十分に行い、自然に入居者の輪の中に入れていけるよう対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、積極的に参加している。全体の会議の中で報告をしてもらい、職員全員が理解し共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4ヶ月に1回、一宮市施設部会の他に、グループホーム、小規模多機能の会議に参加し交流を図っている。情報や意見交換を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用される方が安心して納得した上で利用できるよう、事前見学や体験利用を通じて、本人が職員や他の入居者に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のさりげない会話の中で、本人の思いや不安を知ること努めており、また、一緒に家事を行い共に支えあう関係を大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのその日、その時の気持ちを大切に受け止めて見守りや一緒に行動するなど、思いや希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意見や希望を聞き、生活の記録、アセスメントを基にして職員全体で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化などに合わせて、その都度家族、医療関係者、職員と相談しながら見直しを行っている。変化がない場合でも本人と家族の意向を確認し会議の中で話し合い、検討見直しをしている。見直しの期間は短期で3ヶ月、長期で6ヶ月である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の状況に応じて、自宅への送迎、通院等、必要な支援は柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的に往診を行っている。事業所と協力医とは、24時間いつでも受け入れ可能な関係であり、本人が安心して医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に対する指針を入居時に説明し、同意を得ている。本人の意向を大切にし、家族、協力医、看護師、スタッフで方針を共有し、話し合いを持つ機会を多くし、本人と家族が安心できる支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を傷つけないよう言葉かけは、会議で話し合い特に注意するよう取り組んでいる。記録等の個人情報は事務所の定位置に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にしながら本人の気持ちに寄り添った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考えたり、食事の準備、後片付けは入居者の能力に応じて共に行っている。また、嚥下困難な方には切り方、量など工夫して対話を大切にしながら一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、毎日入浴をゆったりと楽しんでいる。重度の方には職員二人体制で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好きな事に合わせた役割や楽しみのメニュー（ぬり絵、歌、体操、ゲーム、買い物）を多く取り入れている。また、入居者が支え合い会話を楽しみ自らの活動を大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や入居者の体調を配慮し、法人内の花畑の散歩やドライブなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかけていない。入居者が出ていこうとする時のしぐさや気配を感じ取り、一緒に出かけるなどして支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体（特養、養護）をひとつの地域にして、消防署指導の基に年2回実施している。水、食料などの備品も用意されている。また、グループホームの独自の避難訓練を実施しようと努力されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの食材を使用することで栄養のバランスがとれている。食事量、水分量は記録しており、個々に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造でやさしい色彩となっており、居心地の良いつくりになっている。日差しもよく入る間取りの中、自由に過ごせる居場所を確保している。気になる臭いや空気のもどみもなく周りの環境も自然である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等に協力してもらい好みの物を持ち込みながら、その人らしく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。